



福島県 楢葉町概要

笑顔とチャレンジがあふれるまち ならは



町公式マスコットキャラクター：ゆりかちゃん



令和8年7月



町公式マスコットキャラクター：ゆず太郎



ならはスカイアリーナ



しおかぜ荘



干し芋



楢葉の風

○概要

＜人口・町内居住者＞

榎葉町人口 6,160人（3,135世帯）
 （令和8年6月30日現在）

うち町内居住者数 4,453人（2,456世帯）
 （町内居住率 72.3%）

※町内居住者数には住民基本台帳に登録されていない方も含みます。

＜町民居住地分布＞

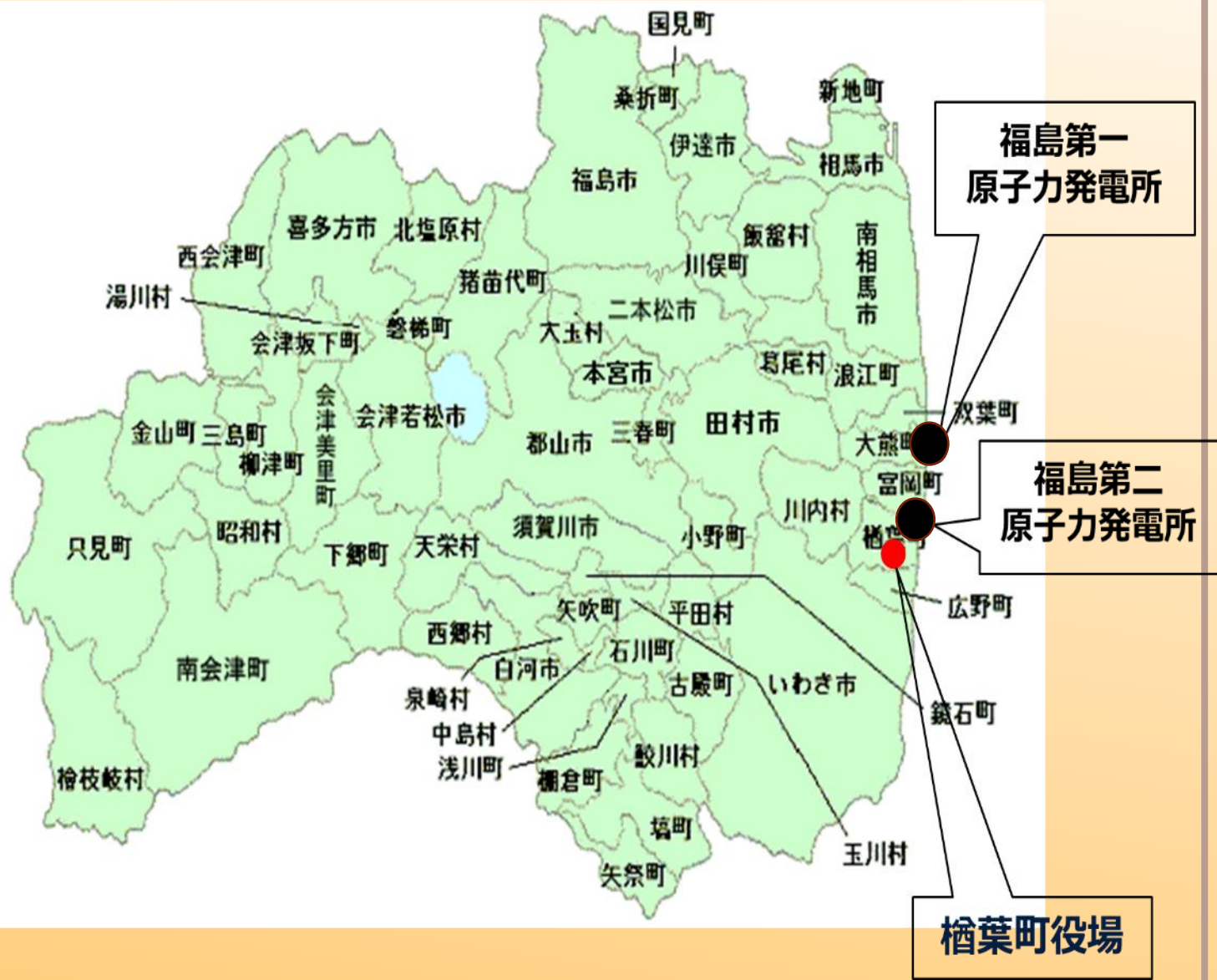
県内 1,960人

県内避難者の内
 いわき市への避難者 1,803人

県外 306人

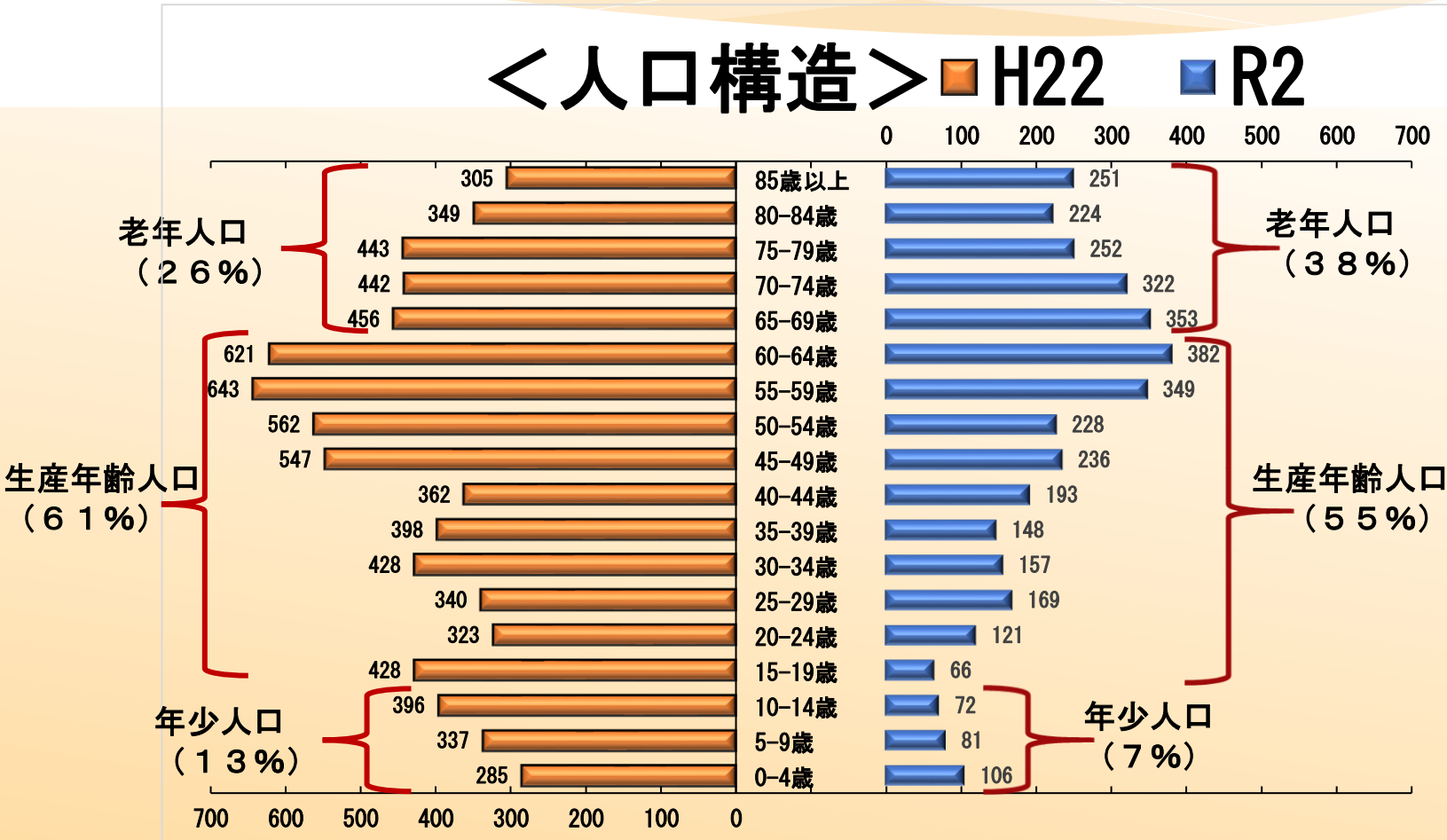
県外避難者の内
 茨城県への避難者 88人

＜榎葉町位置図＞



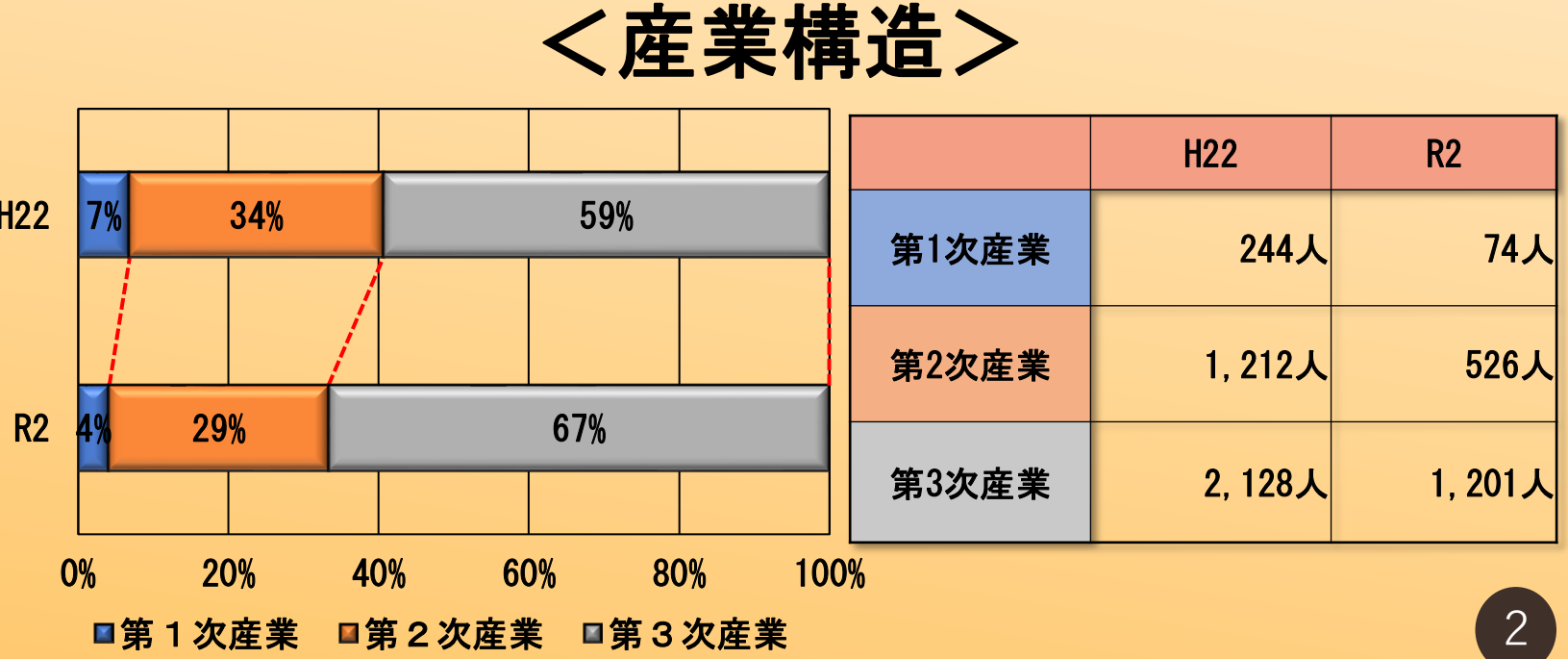
○年齢構成

- 老年人口が人口の38%を占め高齢化が進んだ。
- 「労働力」兼「消費者層」である生産年齢人口は55%と減少した。
- 檜葉町全体の人口減少と高齢化が進み、**労働力の確保が困難**である。



○産業

- 第1次産業及び第2次産業の就業者数の割合が減少し、第3次産業の就業者数の割合が増加した。
- 北産業団地、竜田駅東側事業用地及び南工業団地の整備が進められたが、**第2次産業及び第3次産業の就業者数は落ち込んだまま**である。



平成23年

- 3月11日 震度6強 東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）発生
原子力緊急事態宣言（東京電力福島第一原子力発電所）
3月12日 町の判断で全町民へ避難指示 ⇒ 避難開始
4月22日 福島第一原発／半径20km圏内・警戒区域の設定
9月30日 緊急時避難準備区域が解除

平成24年

- 8月10日 警戒区域解除（避難指示解除準備区域に再編）

平成25年

- 5月24日 榎葉町復興計画（第二次）策定

平成26年

- 3月18日 帰町計画策定
5月29日 帰町の判断を表明
6月1日 JR常磐線「広野駅～竜田駅」間運行再開
役場いわき出張所に「帰町準備室」を設置
7月31日 ここなら商店街（仮設）オープン

平成27年

- 4月6日 準備宿泊開始
9月5日 榎葉町の避難指示解除
9月19日 サイクリングターミナル（宿泊施設）、しおかぜ荘（温泉施設）再開
10月19日 JAEA榎葉遠隔技術開発センター開所式
10月30日 木戸川鮭漁の復活
11月4日 デイサービスセンターやまゆり荘が再開



平成27年9月5日
復興記念式典の様子

平成28年

- 1月25日 樽葉町復興計画第二次（第二版）策定
- 2月1日 県立ふたば復興診療所（ふたばリカーレ）開所
- 3月1日 ふたば農業協同組合樽葉支店が営業再開
- 3月30日 特別養護老人ホーム（リリー園）が再開
樽葉町遠隔技術開発センター（モックアップ施設）試験棟開所
- 4月21日 東邦銀行樽葉支店が営業再開
- 7月7日 樽葉町地域文化交流拠点「樽葉まなび館」オープン
- 9月4日 樽葉町町制施行60周年記念式典

平成29年

- 4月6日 樽葉町内の小中学校再開
- 4月7日 // こども園再開
- 6月27日 災害公営住宅（中満地区）全戸（123戸）完成
- 9月4日 笑ふるタウンならは商業・交流施設起工式

平成30年

- 3月31日 仮設住宅等供用終了（特定延長を除く。）
- 6月26日 商業施設「ここなら笑店街」オープン
- 7月28日 ナショナルトレーニングセンター「Jヴィレッジ」営業再開
- 7月30日 交流施設「みんなの交流館 ならはCANvas」オープン

平成31年（令和元年）

- 3月21日 ならはスマートIC開通
- 4月14日 屋内体育施設「ならはスカイアリーナ」オープン
- 4月16日 カントリーエレベーター及び自動ラック式米農業用低温倉庫・水稻育苗センター完成
- 4月20日 Jヴィレッジグランドオープン、Jヴィレッジ駅開業
- 4月25日 道の駅ならはオープン、温泉保養施設リニューアルオープン
- 9月12日 樽葉町復興計画第二次（第三版）策定

令和2年

- 6月8日 公設民営のならは薬局開設（県内初の公設民営）
- 6月19日 道の駅ならは物産館の再開
- 9月11日 ギリシャ共和国の「復興ありがとうホストタウン」に登録
- 9月14日 檜葉町甘藷貯蔵施設及び農業用機械倉庫落成式
- 11月30日 竜田駅東西自由通路及び橋上駅舎の供用開始
- 12月1日 JR常磐線「竜田駅」の新駅舎が供用開始

令和3年

- 3月20日 JFAメディカルセンター 再開
- 3月25日 東京2020オリンピック聖火リレー Jヴィレッジからスタート
- 11月3日 町政施行65周年式典開催

令和4年

- 4月5日 檜葉小学校開校式（檜葉南小学校と檜葉北小学校が統合）
- 7月16日 12年ぶりに岩沢海水浴場の海開き
- 11月27日 ふるさと福島檜葉会の設立

令和5年

- 4月18日 地域活動拠点施設まざらっせ オープン
- 4月22日 檜葉町と東京大学総合研究博物館連携ミュージアム大地とまちのタイムライン開館
- 4月28日 檜葉町特産品開発センター落成式
- 8月3日 神奈川県鎌倉市と災害時における相互応援に関する協定締結
- 8月4日 大相撲夏巡業檜葉場所をならはスカイアリーナにて開催

令和 6 年

6 月 2 日 多目的運動場（住鉱エナジーマテリアルNARAHAピッチ）落成式
7 月 2 6 日 全国高校総体（インターハイ）男子サッカー競技が開催

令和 7 年

4 月 1 日 多機能拠点（南側エリア）供用開始
9 月 5 日 避難指示解除 1 0 年記念式典
1 1 月 1 4 日 Jヴィレッジにて東京2025デフリンピック（サッカー競技）開催

令和 8 年

4 月 1 3 日 東京事務所開所
5 月 1 2 日 ゆず苗木記念植樹祭（女平地区）



ゆず苗木の記念植樹祭の様子。「黄金の森と」と名付け、大規模樹園地を整備し、ゆずの一大産地化を目指す。

○笑ふるタウンならは

- ◆ 町民や町内事業者の暮らしの再生と新たな居住を促進するため、新しい生活の拠点として、**商業・交流・住宅・医療施設**等を集積。



＜商業交流ゾーン＞

・ **商業施設「ここなら笑店街」**

平成30年6月26日オープン。年間約60万人が利用。

- スーパー・ホームセンター・飲食店・理髪店・クリーニング店・郵便局等12店舗が営業中。



・ **交流館「ならはCANvas」**

平成30年7月30日オープン。

- 各種会議、打ち合せ、展示会、発表会、コワーキング等様々な催しに対応できる施設。



○笑ふるタウンならは

<住宅ゾーン>

- ・ 災害公営住宅：140戸
- ・ 分譲地（１工区）：18区画（戸建用）→完売
- ・ 分譲地（２工区）：37区画（戸建用31区画、集合住宅用6区画）
→戸建用4区画販売中

➤ 坪数：約150坪、坪単価：約6万円



- 災害公営住宅に太陽光パネルと蓄電池を全戸に設置し、スマートコミュニティを運営。

○笑ふるタウンならは

＜医療福祉ゾーン＞

- ・ 県立ふたば復興診療所（ふたばリカーレ）
- ・ 歯科医院
- ・ ならは薬局
- ・ あおぞらこども園



福島県立ふたば医療センター附属ふたば復興診療所（ふたばリカーレ）



歯科医院



ならは薬局
公設民営の薬局



檜葉町立あおぞらこども園
幼保連携型認定こども園

○竜田駅周辺整備

◆ 町民や廃炉関連企業の生活・事業を支援する拠点として
JR竜田駅東側を整備

- ・ 駅東西自由通路・橋上駅舎
- ・ 駅前広場：駐車場、ロータリー
- ・ 宿泊施設：ホテル事業者を誘致中
- ・ 企業宿舍：廃炉関係者の宿舍（350戸）
- ・ 事業用地：6事業者が操業中（設備工事業、情報通信業、運輸業等）



○学校教育の現状と取組み

- ◆平成29年4月に町内で小中学校・こども園が再開。しかし、震災前と比較すると子どもの数が著しく減少しているのが現状。
- ◆町では「**日本一の教育を提供する**」という高い目標を掲げ、魅力ある教育環境づくりに取り組んでいる。
- ◆小学校を統合し柵葉小学校として開校（令和4年4月）。

	震災前 (H22年度末)	町内再開時 (H29年4月)	現 状 (R8年4月現在)
小・中学校	686人	105人	243人
うち小学生	432人	62人	166人
うち中学生	254人	43人	77人
こども園	247人	38人	97人



- ◆**キャリア教育**
 - ・中学生が模擬会社を設立し、町の特産品を活用した商品の販売体験学習を実施。



東京での販売体験

- ◆**地域学校協働センター**
 - ・地域と学校の連携・協働をシステム化して、多様な地域住民の幅広い教育への参画を実現する。
 - ・コミュニティースクールの運営。
 - ・ならはっ子こども教室、ならはっ子ネイチャーサタデー等の体験活動を行う。

- ◆**ICT教育の充実**
 - ・タブレット端末や電子黒板を活用した授業、ICT支援員の配置等。

- ◆**英語教育の充実**
 - ・ALTの配置、ブリティッシュヒルズ語学研修等。
 - ・こども園年長児から英語教育。

- ◆**その他**
 - ・就学支援（学用品費等の補助）、自校給食、図書室支援員の配置等。

○生涯学習の推進

<活動サークル>

● モノづくり

- わらじ組、和布細工工房ほのぼの、藍染会、絵手紙教室
たんぽぽ、ちくちく会（パッチワーク）

● 踊り

- 天神龍舞（よさこい）、華鶴会・紫扇会（日本舞踊）、
DANCE PLACTICE・ダンススポーツ（社交ダンス）、
スポーツ民舞

● その他交流

- なにかし隊、天神太鼓、老人クラブ連合会、婦人会、
ほつつあれDEいいんかいっ？！

<市民講座>

- 書道講座
- 歴史講座
- 詩吟講座
- スコップ三味線講座
- 心に響くハーモニー（合唱講座）
- 落語は人生！（落語講座）



藍染会



和太鼓



スコップ三味線

○健康増進とスポーツ振興

＜スポーツ大会・合宿誘致＞

- ・ 高機能なスポーツ施設（Jヴィレッジ、ならはスカイアリーナ、総合グラウンド）を活用し、プロ・アマの大会・合宿を誘致。



ならはスカイアリーナ内観 プール、アリーナ



多目的運動場



野球場



車いすバスケット日本代表
公開練習



トライアスロン パラリンピック
強化選手の合宿

＜町民スポーツ・スポーツ少年団＞

- ・ 町内スポーツ施設（ならはスカイアリーナ、野球場、多目的運動場等）を活用し、スポーツイベントを実施。
- ・ スポーツ少年団（野球、サッカー、バレーボール、バスケットボール、剣道）の活動を推進。



福島ファイヤーボンズとのバスケット交流教室



いわきFCファン交流イベント

＜スポーツ合宿の実績＞

	利用者数
R4	3,239人
R5	3,654人
R6	6,535人



スポーツ教室

○農業再生の取組み

- ◆ 町の基幹産業である農業の再生は、町の復興に不可欠であり、農業者の営農再開を支援するとともに、収益性の高い新しい作物にも挑戦。
- ◆ 特に「**サツマイモ**」に力を入れており、一大産地化を目指している。

<営農再開状況>（令和６年度実績）

- **水稲**：60戸、332ha作付（震災前：555戸、約440ha）
⇒ 令和5年度全量全袋検査結果：6,589点全量測定下限値（25Bq/kg）未満
令和6年度より、旧市町村ごとに抽出検査を行う
「モニタリング検査」に移行。
- **畑作**：**サツマイモ46戸1法人、60ha作付**
玉ネギ3戸、1.9ha作付
- **花き**：トルコギキョウ、ユーカリ等11戸、4.7ha作付
- **畜産**：酪農牛1戸、127頭
繁殖牛4戸、195頭
（震災前 約43戸、約450頭）
- **施設園芸**：トマト（大玉）1戸、1.1ha



サツマイモ収穫の様子

○農業再生の取組み

＜農業用施設の整備＞

- カントリーエレベーター
 - ・ 収穫後の粃を乾燥→精選→貯蔵→粃摺り→計量出荷まで一貫処理できる施設。
 - ・ 貯蔵能力は約1,000tで、約150ha分の粃を保管処理できる。
- 自動ラック式米農業用低温倉庫
 - ・ 年間を通じて一定の温度で玄米を保管する施設。
 - ・ 玄米を611t、約125ha分保管することができる。
- 水稻育苗センター
 - ・ 水稻の苗を育苗させる施設。
 - ・ 100haを対象として、年間2万箱を処理することができる。
- 甘藷貯蔵施設
 - ・ 国内最大級の貯蔵施設。
 - ・ 192tのキュアリング能力、最大1,260tの甘藷を保管することができる。
- 特産品開発センター
 - ・ 六次化に向けた商品開発を行う施設。
 - ・ 延べ床面積490.24㎡。甘藷、柚子、米粉等の農作物を加工処理できる設備を設置している。



カントリーエレベーター・
自動ラック式米農業用低温倉庫



水稻育苗センター



甘藷貯蔵施設



特産品開発センター

○特産品開発の取組み

●感謝のゆず商品

町内で収穫したゆずを榎葉町特産品開発センターで皮ごと丸絞りし、ポン酢、ドレッシング、生絞りとして販売

●榎葉の風

榎葉町でとれた酒米「夢の香」を使用し、榎葉町の姉妹都市である会津美里町の酒蔵「白井酒造店」で醸造した、榎葉町オリジナル日本酒

●干し芋

町内産「紅はるか」を使用した干し芋
榎葉町甘藷貯蔵施設で長期熟成をしたさつまいもは甘味が豊富で柔らかくしっとりとした触感が特徴的

●ならはう米GABA+

町で栽培された福島県オリジナル品種「天のつぶ」にひと手間加えることで、GABA成分を増やした機能性表示食品のお米
白米の10倍のGABA成分が含まれる



感謝のゆず商品



干し芋



ならはう米GABA+



榎葉の風

○再エネパーク（波倉新産業団地）



- ・ 廃炉となる東京電力福島第二原子力発電所に隣接する波倉地区に「復興のシンボル」として、今までにない新しい産業団地を整備する。
- ・ 日本最大級の「電力調整インフラ」**系統用蓄電池発電事業エリア**（エリアN1・N2）に加え、多種多様な再生可能エネルギー・新エネルギー関連事業・研究を誘致する**オープンイノベーションエリア**（エリアW）と卓越した技術を有する企業の誘致を目指す**企業誘致エリア**（エリアS）を設ける。

ならは創生MAP



ならはスカイアリーナ
● 平成31年4月14日オープン



多目的運動場
● 令和6年6月2日オープン



ならはスマートI.C
● 平成31年3月21日供用開始



ならはCANvas
● 平成30年7月30日オープン



波倉産業団地
● 令和9年3月造成完成予定



檜葉北産業団地
● 新たな企業の誘致



竜田駅周辺整備
● 竜田駅東側
・東西自由通路・橋上駅舎を整備



天神岬スポーツ公園
● 平成28年3月遊具リニューアル



天神温泉しおかぜ荘
● 平成27年9月再開



笑ふるタウンならは
● 災害公営住宅140戸ほか宅地分譲地を販売中
● 商業施設は、平成30年6月26日オープン
● ふたばりカーレ（診療所）、蒲生歯科医院、薬局が開業



道の駅ならは
● 平成31年4月25日リニューアルオープン
● 温泉保養施設とフードコートを有する



カントリーエレベーター
● 平成31年4月16日完成
● 米の乾燥、貯蔵、調製、出荷までを一貫して行う
● 300ha分の水稲を処理できる



水稻育苗センター
● 平成31年4月16日完成
● 良質な苗を育て農家に販売支援を行う
● 100ha、2万箱の処理能力を有する



木戸川の鮭漁の再開
● 平成28年度に鮭化施設を復旧し稚魚の放流を実施
木戸川の鮎釣りの再開
● 令和3年7月4日に11年ぶりに解禁



多機能拠点
● 令和7年4月完成



Jヴィレッジ
● 平成30年7月28日に一部営業再開。同年9月に全天候型練習場オープン
● 平成31年4月20日全面再開



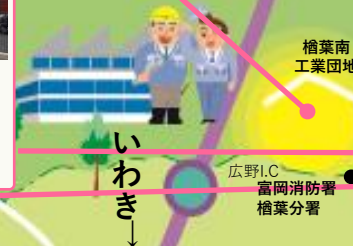
檜葉南工業団地
● 新たな企業の誘致
● 檜葉遠隔技術開発センター



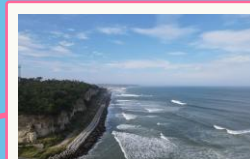
Jヴィレッジ駅
● 令和2年3月14日常磐線全線開通



甘藷貯蔵施設
● 令和2年9月14日供用開始
特産品開発センター
● 令和5年4月28日供用開始



いわき



岩沢海水浴場
● 令和4年7月16日に12年ぶりに海開き。